

2022年2月15日発行



ひかりのこ

2021年度 号外

日本キリスト教団

名古屋新生教会 教会学校だより

名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820

ホームページ: [名古屋新生教会](#) 検索

教会学校礼拝・こどもれいはい 引き続きお休みのお知らせ

全国的な新型コロナ感染拡大の情勢が続き、名古屋市内でも小中学校での学級閉鎖、保育園や幼稚園での休園も相次いでいます。こうした状況から、引き続き3月6日(日)までの教会学校礼拝・こどもれいはい・分級を休止します(大人の礼拝も同様)。休止期間は状況により延長することもあります。その際にはまたお手紙でご連絡しますが、再開や休止延長のお知らせを教会のホームページにも掲載していますので確認してください。

新型コロナ情勢の一日も早い収束と、みなさまの体と心の健康をお祈りしています。そして、また教会で会えることを楽しみにしています。教会学校礼拝・こどもれいはい は休止しますが、今回も礼拝予定の聖書箇所についての物語を載せますので、ぜひお読みください。

2月20日(日) ◇週題: 金持ちの青年 ◇聖書: マルコによる福音書10章17~31節

お金持ちの青年 「先生、何をしたら永遠の命をいただくことができるのでしょうか?」と若者がイエスさまに質問しました。死んで終わりではない、永遠の命をいただくには、天国に行くには、何をすればいいのを知りたかったのです。イエスさまはおっしゃいました。「神さまの教えを守って生きることです。殺してはいけない、盗んではいけない、両親を大切にしないなど、大切な教えがあるでしょう」。すると若者はまっすぐイエスさまを見て、「先生、私は小さいころからこれらの教えを全部守ってきました」と言いました。心の中では、「こんなに立派な自分は褒めてもらえるはず」と思っていたかもしれませんが、イエスさまはそんな若者を優しい目で見つめて、おっしゃいました。「そうですね。ただあなたには、一つだけ足りないところがある。あなたはお金持ちでしょう。そのお金を全部貧しい人たちに分けてあげなさい。それから、私に 従ってきなさい」。すると若者は、急に悲しそうな顔になり、うつむいて、しょんぼりと帰っていきました。お金を全部手放すなんてできない、と思ったのです。この若者が神さまよりもお金に頼っていることをイエスさまは見抜いておられました。



永遠の命は神さまからのプレゼント イエスさまは、弟子たちを見回しておっしゃいました。「お金持ちが永遠の命をいただくのは 難しいことです」。弟子たちはとてもびっくりしました。お金持ちは神さまからたくさん 祝福されているから、成功して、お金持ちになれたのだと思っていたからです。イエスさまはさらに「お金持ちが永遠の命をいただくのは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい」とおっしゃいました。ラクダが小さな針の穴を通り抜けるなんてできません。つまり、お金持ちが永遠の命をいただくこともできないことだということです。弟子たちはますます驚いて、「イエスさま、それなら永遠の命をいただける人なんて誰もいないということですか?」と聞きました。イエスさまは静かにおっしゃいました。「永遠の命は、人が頑張っって何かをして手に入れるものではありません。神さまがご自分を信じて頼る人にプレゼントとして与えてくださるものなのです」。

弟子のペトロが言いました。「イエスさまに従うことを選んだ 私たちは、永遠の命をいただけるのでしょうか」。イエスさまはにっこりして、「そうですね、私に従い、神さまに頼る人は永遠の命をいただき、神さまの子どもとされる

のです」とおっしゃいました。永遠の命は、神さまを信じて頼る人に与えられるプレゼントです。みなさんも神さまからのプレゼントをいただきましょう。

2月27日(日) ◇週題: バルティマイ ◇聖書: マルコによる福音書10章46~52節

目が見えないバルティマイ エリコの町の近くにバルティマイという名前の男の人がいました。目が見えないので働くことができません。いつも道ばたに座って誰かがお金をくれるのを待っていました。ある日、周りの音がいつもと違うことに気づいたバルティマイは耳を澄ました。大勢の足音や話し声が聞こえます。「何だろう?」近くを通る人に聞いてみました。「あ、何かあるんですか?」「イエスさまがお通りになるんだよ」「イエスさまですって?」バルティマイは思い出しました。「イエスさまは 病 気の人を治せるぞうだ。目が見えない人も、見えるようにしていただいたぞうだ。私もお願いしよう。イエスさまなら 必ず 私 の目を治してください」。そこで、「救い主イエスさま、私をあわれんでください!」とバルティマイは大声で叫びました。周りの人が「うるさい!」と言って黙らせようとしたましたが、バルティマイはもっともって大きな声で「イエスさま! 私をあわれんでください!」と叫び続けました。



バルティマイの信仰 イエスさまは立ち止まって、「あの人をここに連れてきなさい」とおっしゃいました。周りの人がバルティマイに言いました。「さあ、立ちなさい。イエスさまが呼んでいらっしゃるよ」。バルティマイはすぐに立ち上がり、汚れた上着を脱ぎ捨てて、うれしくて飛び跳ねるようにイエスさまのおそばに行きました。イエスさまが優しくお尋ねになりました。「私に何をしてもらいたいのですか?」イエスさまはバルティマイが何を願っていたのかご存じでしたが、しっかりと自分のことばで言うことによって、イエスさまを信じる信仰をはっきりさせようとなされたのです。バルティマイは少し興奮した様子で、「見えるようになりたいのです!」とお願いしました。イエスさまが「よろしい、さあ行きなさい。あなたの信仰があなたを救いました」とおっしゃると、バルティマイはすぐに見えるようになりました。信じていたとおりになったのです。そのときからバルティマイはイエスさまに従う人になりました。

3月6日(日) ◇週題: ザアカイ ◇聖書: ルカによる福音書19章1~10節

徴税人の親分 税金を集める人を「徴税人」といい、エリコに住むザアカイは徴税人の親分でした。ザアカイという名前には「きよい人」という意味があるのですが、このザアカイは名前とはまったく反対の人でした。税金が払えないほど貧しくて困っている人からもお金を取っていきます。余分にお金を集めて自分のものにしてしまうこともあります。だからザアカイはみんなから嫌われて、仲良しの友だちが一人もいませんでした。お金はたくさん持っていたが、心は寂しかったことでしょう。



イエスさまに呼ばれたザアカイ エリコの町にイエスさまがいらっやった時のことです。町中の人々が、「イエスさまだ、イエスさまだ」と言いながら走って行くのを見て、ザアカイも通りに飛び出しました。「あの有名なイエスさまってどんな方だろう、会いたいなあ」。そう思っってみんなについて行きましたが、大勢の人が集まっって、背が低いザアカイはイエスさまを見ることはできませんでした。「ぞうだ!」ザアカイは道の先に走っって行き、いちじくの木に登りました。「よし、イエスさまはこの道を通るから、木の上ならじっくり見られるぞ」。ザアカイは木の枝に座っって待ちました。しばらくすると、大勢の人に囲まれてイエスさまがいらっやいました。そして、ザアカイが登った木の下で立ち止まると、上を向いて、「ザアカイ」とお呼びになったのです。ザアカイはびっくりして、木の枝にしがみつきました。「ザアカイ、降りてきなさい。今日はあなたの家に泊めてもらいますよ」。イエスさまの呼びかけにザアカイは転げ落ちるようにあわてて木から降りました。「どうぞおいでください」。ザアカイはイエスさまを自分の家へ案内しました。

新しい人になったザアカイ イエスさまのお話を聞きながら、ザアカイは自分がこれまでしてきたことを考えました。それからイエスさまの顔を見つめて言いました。「イエスさま、ごめんなさい。私ははずるいことをしてお金をもうけました。財産の半分を貧しい人たちに分けてあげます。だまして取り上げたお金は4倍にして返します」。イエスさまは優しくなずいておっしゃいました。「ザアカイ、あなたは救われました。私は、あなたのように神さまから離れて悪いことをしてしまう人を救うために来たのです」。イエスさまはザアカイをゆるしてくださいました。ザアカイは名前のとおり「きよい人」になったのです。

神さまを忘れて悪いことをしてしまったことはありませんか?「ごめんなさい」と謝りましょう。イエスさまは必ずゆるしてくださいます。ザアカイのように新しい人になってくださいます。イエスさまに喜んでいただける子どもになりたいですね。